

部活動がオリンピックの入り口

【3学期終業式 学校長式辞から】

令和3年度を振り返ればコロナウイルスの感染拡大でいろいろな学校行事が制約を受けた1年間でした。しかし、コロナ禍の中でしたが、東京オリンピックと北京オリンピックが連続して開催され、多くの方がスポーツ観戦を楽しみました。

そんな中で、私はある新聞記事が印象に残りました。それは、オリンピック選手の多くが、「高校の部活動がオリンピックへつながる道の入り口だ」「部活動でがんばったことがオリンピックにつながった」と述べているという記事です。オリンピックを意識したり、目標にして本気で取り組み始めたのが高校生の時だった、インターハイへの出場がオリンピックを目指すきっかけとなったという選手が多いということです。

それを読みながら、なるほど高校時代には、その人の一生に渡って大きく影響を与えるような何かへの入り口やきっかけがあるのだと改めて思いました。それが何なのかはわかりません。オリンピック選手にとってはそれが部活動による自分の得意なスポーツ、好きなスポーツとの出会いだっただけなのでしょう。

しかし、それは部活動でのスポーツに限ったことではなく、高校生活全般の中で、一生続けられるような自分の好きな事や得意な事を見つけられるということです。例えばそれは、これからもずっと楽しめる趣味との出会いかもしれません。人生観や価値観が共感できる大好きな作家や本との出会いかもしれません。これを将来の自分の仕事にしたいと思うようなきっかけかもしれません。ぜひこの大学に行って学びたいと思うような専門分野の発見かもしれません。これからもずっと仲良くしていく気の合う友達との出会いかもしれません。私自身、英語や海外に興味を持ったのは高校時代でした。

高校時代には、皆さんのこれからの未来に繋がっていく何かの入り口やきっかけ、出会いがきっとあります。もうすでにそれを見つけている人もいるでしょう。まだ見つかっていない人もきっと三木高校の3年間で見つかると思います。

皆さんが高校生活の中で、将来へとつながる道の入り口やきっかけを見つけるためには、今すぐにできないから、わからないからと言って簡単にやめてしまわないことが大切です。できること、わかることにしか興味を示さないのは子どものことです。できること、わかることだけをやっていても自分の可能性は広がりません。

できないからこそやる意味がある、わからないからこそやる意味があると考えましょう。今できないことができるようになる、わからないことがわかるようになるのが成長です。4月以降、皆さんが高校3年生として、高校2年生として大きく成長してくれることを期待しています。

(校長 高橋信之)